

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771100611
法人名	社会福祉法人サマリヤ
事業所名	サマリヤ大川グループホーム
所在地	香川県さぬき市大川町田面1198-1 (電話) 0879-23-2711

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年10月3日	評価決定日	平成19年11月16日

## 【情報提供票より】(19年 9月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 10月 3日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 1人、非常勤 8人、常勤換算 5.95人

### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	10,000円+実費	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または一日当たり 950円				

### (4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	6名	男性	1名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	71歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	陶山医院 さぬき市民病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は元手袋会社の木造の母屋と工場を上手に利用し、和室や洋間があり、各自それぞれが使い慣れた家具や道具を持ち込み、独自の生活が楽しめる工夫がうかがえる。また、昔ながらの木造の家であるので、新しい利用者が入居しても、当グループホームに慣れ、安心して自分の家のように溶け込むことができている。ホームでは寝たきりにならないよう職員が工夫し、歩行困難な利用者にも椅子に座らせたり、車椅子で外に連れ出す等、その人らしい生活支援が工夫され、努力されている。また、職員は一丸となり、家庭的雰囲気の中で明るく生活できるように工夫していることがうかがえ、更なる発展を期待する。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>生活空間作りの工夫が前回の改善点であり、昨年からは具体的取り組みとして、日向ぼっこや車椅子体操、ボール遊び、近くの寺に散歩に行ったり、買い物や四季の花見、外食等の外出支援など、利用者本位の生活支援に、職員が一丸となり、取り組む工夫がうかがえる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価、外部評価が、今後の質の向上につながるので、職員が全員で足元を見直すよい機会のため、項目一つずつを検討し、真剣に取り組んだ姿勢がうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域密着型の重要な意義を理解し、2か月に1回開催の運営委員会議では、地域の自治会福祉委員、民生委員、婦人会副会長、地域包括支援センター職員、長寿障害福祉課職員、理事長、管理者、利用者代表など、多くの方からの意見を伺い、質の向上に向けて前向きに取り組んでおり、地域での活躍がうかがえる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の毎日の生活リズムは、業務日誌や個人の記録簿に詳細に記録され、ホームの入り口には「苦情箱」を置いているが、投函されたことがない。2か月に1回の運営推進委員会に、家族の方も参加し、意見を出し合っており、家族との良い関係が築かれているため、安心して入居されていることがうかがえる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との連携は、毎月土曜日または日曜日にある自治会での”ふれあい喫茶”や、近くの集会場での食事会に招待されている。また、秋祭りには獅子や奴、クリスマス会には保育園児の訪問があり、地域との連携にも工夫がうかがえる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した、住み慣れたところで、自分の使い慣れた家具なども持ち込み、安心して生活できる明るい雰囲気、仲良く楽しい生活支援がうかがえる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員が一丸となり、理念である「愛・忍耐・技術」を少ない利用者と職員が認識し、優しい気持ちや気配りからチームプレーがうかがえる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議での地元の方や、近くの元職員の方などの支援を受け、地元の行事に参加し、地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価などの結果等を、運営推進委員会の場で報告し、改善点や自己評価についても、次年度に向け、質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議で、ホームの取り組み報告や委員からの意見を伺い、前向きな姿勢がみられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターと連携して、市町での取り組みの情報を入手し、ホームの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、ホームでの状態や状況などは、行事と共に、担当者直筆のコメントを書き添えて、家族に手紙を送付しており、大変喜ばれ、安心感を与えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希望や苦情を受付ける苦情箱を設置したり、運営推進委員会に家族が参加し、その場で話し合う等、家族が意見等を外部者へ表せる機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	大きな異動はなく、創設以来の職員が多い。また、職員も和気あいあいで、チームの和がうかがえる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修会に、職員が交互に参加する等、職員の意識の向上にも努力がうかがえる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームとの交流会において、事例報告、問題提起などを行い、お互い、ホームの向上に努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	7月にケアマネージャーが交代し、新しい気持ちでケアプランを作成に当たり、家族、職員などの意見を取り入れ、毎日の生活状況等、多角的に見たケアプランの作成に努力している。また、家族や本人をよく理解し、徐々に馴染めるよう、新しい利用者のケアプランについては、ケアマネージャーが職員を集めて話しあっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活のなかで、利用者から教えられることが多々あり、職員は一緒に過ごせる機会を大切にしている。また、家族と一緒に本人を支えるために、家族と同じような思いで支援することに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での職員との会話から、利用者本人の意思表示を見極める努力がうかがえる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の担当者会議で、職員の意向を重視し、その結果を家族と話し合い、家族の意見や職員の意見を総合的に判断し、2～3回の試案・実施・反省から、実践に向けて努力している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化に応じて、月1回の担当者会議から、現状に即したプランを立てるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の意向で、通院、外出、買い物、外泊、外食、四季の花見、地元の行事参加など、要望や希望に応じた支援に努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時対応してくれる近くの医療機関を確保し、相談できる関係ができていますので、家族からも安心されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設以来7年になり、看取り介護も経験しているが、更に、今後、看取り介護と終末期の過ごし方について具体的に話し合い、体制を検討されるよう期待したい。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーが損なわれないよう、職員一同が慎重な対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が少ないこともあり、個々のペースに合わせた支援が行われ、日々の生活の中で、過去の暮らしから、その人の特技を活かした暮らし方がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片づけまで、その人に合ったペースで利用者が動いている。食事は、利用者と職員と一緒に、楽しい雰囲気のもと、利用者全員、自分の馴染みの箸や湯呑み、茶碗などで、上手に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状では、火曜・木曜・土曜が入浴日になっているが、今後希望があれば、時間外や状況に応じて入浴ができる支援を考えている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の過去の生活歴に合わせた家事、レクリエーション、趣味、園芸、農作業などに参加できる支援が行われている。また、その日により、買い物、外食、花見、ドライブ等も取り入れた工夫がうかがえる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、外食、ドライブ等、その日の希望に応じて、気分転換の支援がうかがえる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	最近までは鍵をかけない状態であったが、最近の利用者に帰宅願望の強い人がいるため、交通量が多く危険性もあり、やむを得ず施錠している。	○	新しい利用者がホームに慣れてきたら、日中だけでも鍵をかけないようにする等、今後の取り組みが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、防火訓練や災害訓練、救急救命訓練を実施し、職員一同で周知、熟知に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄記録により、便秘気味の方には水分補給したり、食事のメニューを考えた献立にする等、努力している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ドッグセラピーにより、利用者が犬を可愛がったり、世話をされている。また、花壇には、コスモスが季節感をかもし出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた家具、食事の食器、使い慣れた様々な物品を持ち込み、居室が個々の自宅のようであり、今までの生活様式で楽しんでいる様子が見える。		